

勝央町手話言語条例をここに公布する。

令和5年12月15日

勝央町長 水嶋 淳治

## 勝央町条例第12号

### 勝央町手話言語条例

手話は、音声言語と異なり、手や指、体の動き、顔の表情を使い視覚的に表現する言語である。ろう者は物事を考え、意思疎通を図り、お互いの気持ちを理解し合うため、また豊かな社会生活を営むために必要な言語として手話を大切に育んできた。しかしながら、これまで手話が言語として認められなかったことや手話を使用できる環境が整えられてこなかったことから、ろう者は、必要な情報を得ることや意思疎通をとることができず、多くの不便や不安を感じながら生活をしてきた。こうした中で、障がい者の権利に関する条約や障害者基本法において、手話が言語として認められたが、手話への理解や普及への取組は、いまだ十分とは言えない。本町においても、ろう者全ての人が、手話を使って安心して暮らせることができ、障がいの有無にかかわらず、お互いに尊重し、支え合いながらともに安心して暮らせるまちづくりを推進することとし、この条例を制定する。

#### (目的)

第1条 この条例は、手話は言語であるとの意識に基づき、手話に対する理解及びその普及並びに地域において手話を使いやすい環境の構築に関する基本理念を定め、町の責務並びに町民及び事業者の役割を明らかにするとともに、総合的に手話に関する施策を推進することにより、ろう者があらゆる機会に社会参加でき、全ての町民と共生することのできる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

#### (基本理念)

第2条 手話に対する理解及びその普及は、ろう者が手話を言語として意思疎通

を図る権利を有することを理解し、全ての町民が互いに人格を尊重し合うことを基本として行わなければならない。

(町の責務)

第3条 町は、前条に規定する基本理念（以下「基本理念」という。）に基づき、手話に対する理解の推進及び手話の普及を図り、手話を使いやすい環境の整備を推進するための施策を講ずるものとする。

(町民の役割)

第4条 町民は、基本理念に対する理解を深め、手話に関する町の施策に協力するよう努めるものとする。

(事業者の役割)

第5条 事業者は、基本理念を尊重し理解を深めるとともに、ろう者が利用しやすいサービスを提供し、働きやすい環境を整備するよう努めるものとする。

(施策の推進)

第6条 町長は、次に掲げる施策を推進するものとする。

- (1) 手話に対する理解の促進及び手話の普及に関する施策
- (2) 手話による情報の取得及び手話を使用しやすい環境づくりに関する施策
- (3) 手話を学ぶ機会の提供に関する施策
- (4) 手話による意思疎通支援に関する施策
- (5) 前各号に掲げるもののほか、町長が必要と認める施策

2 町長は、前項各号に規定する施策の推進に当たっては、必要に応じ、手話を必要とする人、手話通訳者その他の関係者の意見を聴き、その意見を尊重するよう努めるものとする。

(その他)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。